



全国学力・学習状況調査

授業改善 の **Point'21**

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○実施日 令和3年5月27日（木）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

ア) 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では、上記ア)とイ)を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査及び学校に対する調査

○対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

○県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合 計
学校数 (分校含む)	163校	[1校]	85校	[3校]	248校
児童生徒数	6,097人		6,054人		12,151人

2 全体についてのコメント

- ①全体的に見て、全国平均との差が±5ポイント以内であり、全国平均と概ね同等の結果である。 (全国の平均正答数との比較：上回る☆ 同等－ 下回る★)

令和3年度 本県の調査結果(公立) 【悉皆】				
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県) 問	8.8/14	10.8/16	9.2/14	9.1/16
平均正答数(全国) 問	9.1/14	11.2/16	9.0/14	9.1/16
正答数の差	★	★	☆	－
平均正答率(本県) %	63	68	66	57
平均正答率(全国) %	64.7	70.2	64.6	57.2

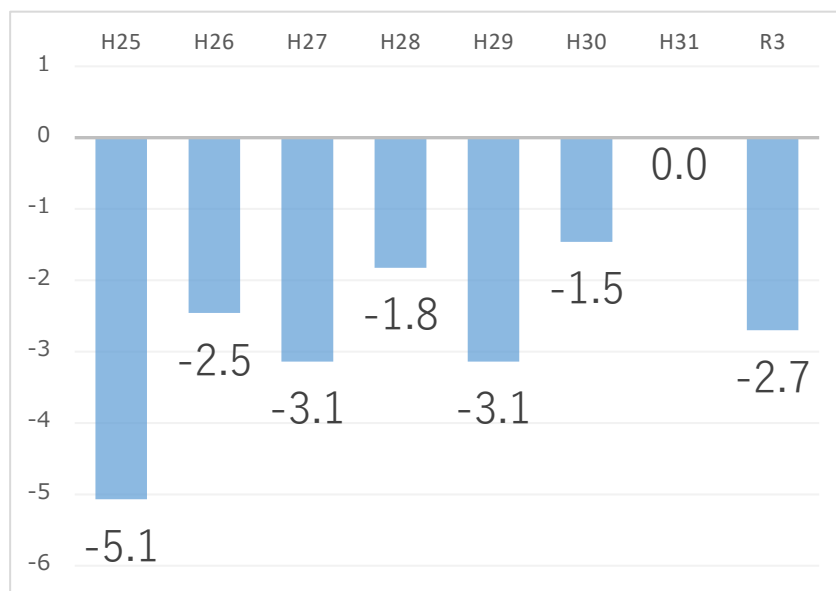
また、前回（平成31年度）調査における全国平均との差も同様に±5ポイント以内であり、前回調査と同等の結果である。

平成31年度(令和元年度) 本県の調査結果(公立) 【悉皆】				
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県) 問	8.7/14	9.3/14	7.5/10	9.5/16
平均正答数(全国) 問	8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16
正答数の差	★	－	☆	★
平均正答率(本県) %	62	66	75	60
平均正答率(全国) %	63.8	66.6	72.8	59.8

- ②経年的に見て、改善の傾向が読み取れる。

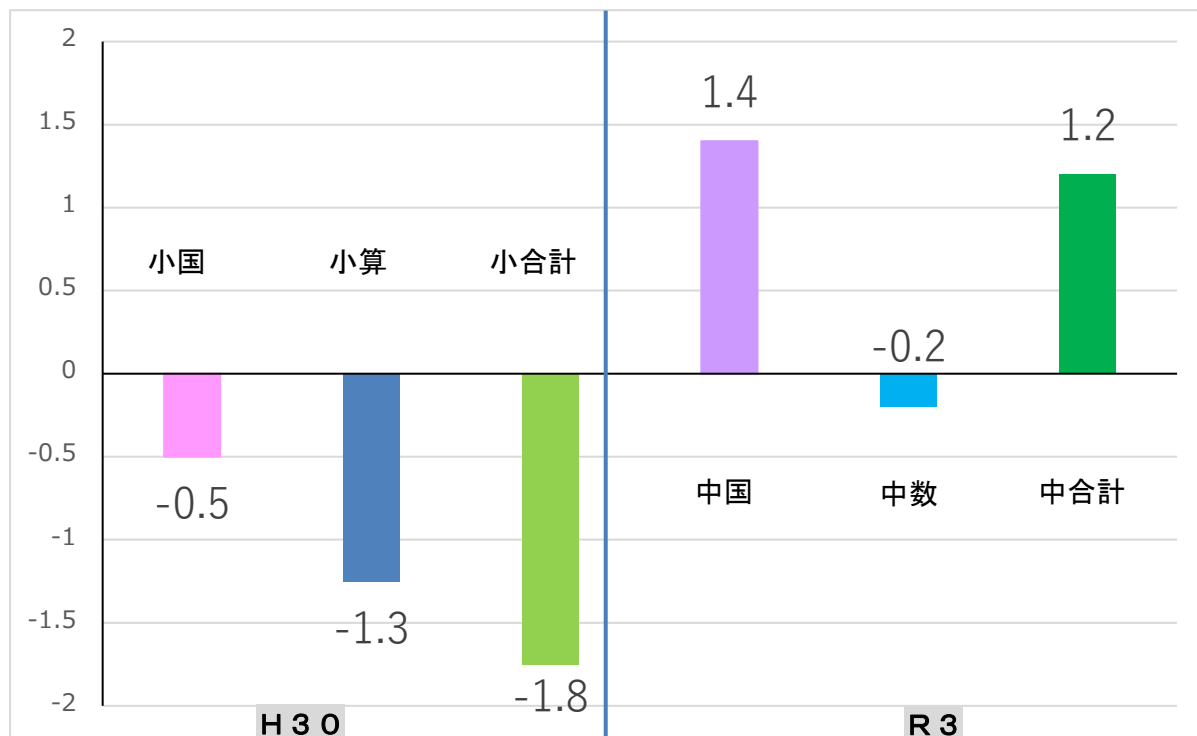
- 平成25年度には全国平均から-5.1ポイントの差があったが、本年度は-2.7ポイントであり、差の増減はあるものの、改善の傾向にあるといえる。(図1)

図1 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移



- ③同一学年生徒（今年度の中学３年生が小学校６年時）の比較では、3.0 ポイント上昇している。（小学校６年時-1.8 から、本年度+1.2 に全国平均を上回るまで、伸びを示している。）（図２）

図２ 小学校６年（H３０）と中学校３年（R３）における全国平均正答率との差



- ④質問紙調査においては、これまで肯定的な回答が多かった、学習への興味・関心・規範意識・自己有用感に関する項目について、全国平均と比べて引き続き高い傾向にある。

<児童生徒質問紙>

- ・児童生徒共通して、学習に対する興味関心が、全国平均を上回っている。
 - 小 2.4 ポイント (山梨 85.7% 全国 83.3%)
 - 中 1.6 ポイント (山梨 78.3% 全国 76.7%)
- ・児童生徒共通して、「人が困っている時には進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」等の規範意識の項目で、全国平均を上回っている。
 - 小 1.8 ポイント (山梨 95.5% 全国 93.7%)
 - 中 2.0 ポイント (山梨 95.1% 全国 93.1%)
- ・児童生徒共通して、「自分にはよいところがある」「将来の目標を持っている」等の自己有用感などの項目で、全国平均を上回っている。
 - 小 3.2 ポイント (山梨 81.8% 全国 78.6%)
 - 中 4.4 ポイント (山梨 76.8% 全国 72.4%)

- ・児童生徒共通して、生活習慣・学習習慣に関する項目についても、全国平均を上回っている。
 小 3.7 ポイント(山梨 88.8% 全国 85.1%)
 中 2.7 ポイント(山梨 84.9% 全国 82.2%)
- ・児童生徒共通して、学習時の ICT の活用に関する項目については、全国を下回っており、ICT 活用促進に取り組む必要がある。
 小 -8.1 ポイント(山梨 48.9% 全国 57.0%)
 中 -10.6 ポイント(山梨 41.3% 全国 51.9%)

<学校質問紙>

- ・小学校中学校共通して、授業改善に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 5.3 ポイント(山梨 90.0% 全国 84.7%)
 中 4.2 ポイント(山梨 85.5% 全国 81.3%)
- ・小学校中学校共通して、生徒指導に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 3.1 ポイント(山梨 95.9% 全国 92.8%)
 中 1.1 ポイント(山梨 97.9% 全国 96.8%)
- ・小学校中学校共通して、教職員の資質能力の向上に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 4.2 ポイント(山梨 94.5% 全国 90.3%)
 中 7.0 ポイント(山梨 94.9% 全国 87.9%)
- ・小学校中学校共通して、地域と連携した活動に関する項目で、全国平均を上回っているが、コミュニティ・スクール等の設置に係る項目では、全国平均を下回っており、今後も継続して取り組む必要がある。
 小 -2.0 ポイント(山梨 72.7% 全国 74.7%)
 中 -1.7 ポイント(山梨 79.7% 全国 81.4%)

- ⑤同一学年生徒（中学3年生が小学校6年生時）の正答率の伸びについては、児童生徒質問紙において、学習への興味関心・規範意識・自己有用感に関する項目について、肯定的な回答の割合が高いことが、要因の一つと捉えられる。

山梨県の同一児童生徒の小学校6年生時から中学校3年生時の全国学力学習状況調査における正答率の比較においては、過去の調査を含め、平均正答率の伸びが確認できる。同時に、質問紙調査においても、自己有用感に関する項目は全国平均を上回る傾向が続いている。

文部科学省が公表した過去の調査における平均正答率と質問紙のクロス集計では「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られたとしている。

本県でも、児童生徒の自己有用感が育まれることにより、小学校から中学校に向けて学力が伸びていく傾向があると捉えられる。

令和3年度 山梨県指導重点 ◇学級経営・ホームルーム経営の充実◇

- 児童生徒が所属感、自己有用感をもつことができるよう、集団としての意見をまとめたり、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容等を決定したりする活動に取り組み、一人一人のよさや可能性を生かすように努める。

3. 令和3年度を取組

1 学力向上総合対策事業の推進

- 学力向上推進事業（学力向上対策会議、学力向上キャラバン）
- 山梨県学力把握調査事業
- 学力向上支援スタッフ配置事業、スクール・サポート・スタッフ配置事業
- 少人数教育推進事業
- 英語教育改善プラン推進事業
- 小学校プログラミング教育推進事業
- 深い学びの実現に向けた ICT 活用推進事業
- 情報社会に生きる読解力・記述力育成事業
- 若手教員グローアップ事業
- 家庭学習習慣化促進事業
- 外国人児童生徒等支援事業

2 やまなしスタンダードの推進

- ・ 「やまなしスタンダード～授業づくりの7つの視点～」のもと、県全体での授業づくりの取組の推進

3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・ 地域学力向上推進幹を中心とした、各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策の推進

4 県教委による採点および採点講習動画配信の実施

- ・ 小・中学校の答案を総合教育センター指導主事（小・中・高）が採点し、今年度の傾向を分析
- ・ 自校採点の方法等に関する説明動画を小・中ともに配信（各校の課題把握のための自校採点を促し、課題克服に向けた早期の授業改善につなぐ）

5 各種説明会を通じた早期の授業改善の推進

- ・授業改善のための組織的な対応を促すため、学力調査を踏まえた授業改善のための説明会（小：6月29日、中：7月1日）を開催
- ・誤答から考えられる課題と、課題克服に向けた授業改善のポイントをまとめた冊子の配付、早期の授業改善を促進

6 「学力向上フォーラム2021」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘して、「主体的・対話的で深い学び」を通じた学力向上の在り方についての講演会
- ・全国学力・学習状況調査より明らかになった課題、学校での学習と学力向上対策等についての指導主事による説明
- ・学級経営の充実に向けた取組に関する講演、トークセッション

4. 結果を踏まえた今後の取組

○指導主事による学校訪問

- ・市町村、学校毎の状況を把握し、指導改善の取組の周知・徹底を図る。

○分析結果を反映させた研修会や学習会の実施

- ・各種研修会の中で、分析結果をもとにした授業改善の取組を説明する。
- ・各校からの要請で行う学習会にて、指導主事が授業改善に向けた指導を行う。

○「結果と授業改善のポイント」の冊子の作成・配付と説明会の実施

- ・授業改善に向けた取組を推進するため、全国学力・学習状況調査及び山梨県学力把握調査等の調査結果、及び山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査を踏まえた取組について、小学校4教科(国・算・社・理)、中学校5教科(国、数、英、社、理)で作成し、各校に配付する。
- ・2学期以降の授業改善につなげるために、作成した冊子をもとに説明会を実施する。
(10月上旬予定)

○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・各種学力調査の結果を受け、課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、確実な学力の定着を目指す。(10月中に配信)

1. 各教科の概要

以下の3つの視点から分析を行った。

- 正 平均正答率が高いまたは低い主な設問
- 差 全国平均正答率と差が見られる主な設問
- 経 経年比較で成果や課題が見られる主な設問

小学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		平均正答率（％）		選定理由	
			山梨県	全国		
国語	○	津田梅子についての【スピーチ】の練習の の部分で話す内容として適切なものを選択する〔1三〕	80.0	81.0	正	平均正答率が高い。新学習指導要領に示された内容についてもできている。
	△	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く〔2四〕	27.7	29.7	正 差	平均正答率が低く、全国平均を2ポイント下回っている。
算数	○	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ〔3（1）〕	95.2	95.8	正	平均正答率が高い。
	△	直角三角形の面積を求める式と答えを書く〔2（1）〕	49.0	55.1	正 差	平均正答率が低く、全国平均を6.1ポイント下回っている。

中学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		平均正答率（％）		選定理由	
			山梨県	全国		
国語	○	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する〔1二〕	93.6	92.5	正	平均正答率が高い。
	△	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く〔3四〕	20.2	20.5	正	平均正答率が低い。

数 学	○	反復横とびの記録の中央値を 求める〔5〕	86.6	84.5	正 差	平均正答率が高く、全国 平均を2.1ポイント上回 っている。
	△	「日照時間が6時間以上の日 は、6時間未満の日より気温 差が大きい傾向にある」と主 張できる理由を、グラフの特 徴を基に説明する「〔8 (3)〕」	11.1	11.1	正 経	平均正答率が低く、経年 的にも課題が見られる。 〔H29 B〔5〕(3) 県 14.3% 全国 17.6%〕

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

【質問内容の番号は各質問紙の設問番号を表す】

(1) 児童生徒質問紙

※肯定的な回答が高い内容

＜上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差＞

＜数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す＞

質問項目	小学校	中学校
①学習に関する興味関心：国語と算数（数学）8項目の平均	85.7% +2.4	78.3% +1.6
①-1 国語への関心：4項目の平均	85.1% +3.2	83.6% +3.3
43 国語の勉強は好きですか	62.6% +4.2	64.3% +3.5
44 国語の勉強は大切だと思いますか	95.3% +2.1	93.8% +2.2
45 国語の授業の内容はよく分かりますか	89.0% +4.8	84.9% +4.8
46 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立 つと思いますか	93.5% +1.7	91.4% +2.7
①-2 算数（数学）への関心：4項目の平均	86.3% +1.6	73.0% -0.1
52 算数（数学）の勉強は好きですか	70.0% +2.2	57.5% -1.6
53 算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	94.4% +0.6	85.1% +1.0
54 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	86.7% +2.1	74.8% +0.2
55 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき に役に立つと思いますか	94.2% +1.6	74.7% +0.1

②規範意識：3 項目の平均	95.5% +1.8	95.1% +2.0
10 人が困っているときは、進んで助けていますか	92.2% +3.5	92.1% +3.6
11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8% +1.0	97.4% +1.5
12 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5% +1.0	95.8% +0.8
③自己有用感：2 項目の平均	81.8% +3.2	76.8% +4.4
6 自分には、よいところがあると思いますか	80.0% +3.1	80.8% +4.6
7 将来の夢や目標を持っていますか	83.6% +3.3	72.8% +4.2
④生活習慣、学習習慣：4 項目の平均	88.8% +3.7	84.9% +2.7
1 朝食を毎日食べていますか	96.9% +2.0	93.9% +1.1
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.7% +4.5	82.6% +2.8
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.6% +3.2	94.1% +1.4
17 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	79.0% +5.0	69.1% +5.6

※全国平均を下回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
 <数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
⑤授業での I C T 活用：2 項目の平均	48.9% -8.1	41.3% -10.6
26 5 年生（中学 1、2 年生）までに受けた授業で、コンピュータなどの I C T 活用機器をどの程度使用しましたか【月 1 回以上】	68.4% -6.6	59.8% -9.1
27 あなたは学校で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか【週 1 回以上】	29.3% -9.7	22.7% -12.1

(2) 学校質問紙

※肯定的な回答が高い内容

＜上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差＞

＜数値は肯定的な回答をした学校の割合を表す＞

質問項目	小学校	中学校
①授業改善：3 項目の平均	90.0% +5.3	85.5% +4.2
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	96.4% +11.8	97.6% +13.1
36 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	89.6% +1.5	85.9% -1.0
37 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	84.1% +2.7	72.9% +0.3
②生徒指導：5 項目の平均	95.9% +3.1	97.9% +1.1
7 調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	92.0% +3.5	96.4% +0.4
8 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	90.8% +5.5	98.8% +0.9
9 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	97.5% +2.9	96.5% +3.8
10 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか	100% +3.1	98.8% ±0
11 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	99.4% +0.7	98.9% +0.3
③資質能力：8 項目の平均	94.5% +4.2	94.9% +7.0
17 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	99.4% +0.7	97.6% -0.4
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	98.8% +0.3	98.8% +1.6
23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	98.2% +0.1	100% +6.1
24 児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を	84.1% +1.7	84.7% +7.0

行っていますか		
25 (小) 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか (中) 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	92.6% +16.7	97.7% +22.1
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	96.4% +11.8	97.6% +13.1
27 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	98.2% +1.8	96.5% -0.3
28 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	88.4% +1.0	85.9% +6.8

※児童生徒質問紙・学校質問紙において、ともに課題がみられる項目

質問項目	小学校	中学校
①地域連携：4項目の平均	72.7% -2.0	79.7% -1.7
80 職場見学や職場体験活動を行っていますか【いる】 【学校質問紙】	49.1% +4.9	94.1% +4.5
81 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか【学校質問紙】	86.5% +0.8	91.8% +4.6
82 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか【学校質問紙】	97.6% +1.9	87.1% -1.8
83 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(82)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか【学校質問紙】	57.7% -15.6	45.9% -17.4
参考：今住んでいる地域の行事に参加していますか 【児童・生徒質問紙】	71.1% +13.0	60.3% +16.6

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組に関する質問

【学校質問紙】

＜上 段：本県回答率

下 段：全国平均との差＞

質問項目	小学校	中学校
臨時休業期間中の家庭学習の内容		
①学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ①教科書に基づく学習内容の指示	90.8% -2.6	90.6% -1.9
②学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ②学校が作成したプリント等を配布	98.8% +3.1	96.5% +1.2
③学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑤学校が作成した学習動画等を活用した学習	26.4% +3.2	31.8% +5.1
④学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑧都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習	60.2% +17.1	52.9% +16.4
⑤学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑥同時双方向型オンライン指導を通じた学習	5.0% -0.7	7.1% -0.3
学習状況や生活状況の把握手段(抜粋)		
①学校の全部を休業としていた期間中、調査対象児童の学習状況や生活状況についてどのような手段で把握していましたか(複数選択可)		
1. 登校日を設定して学校で直接行った	66.9% +7.6	74.1% +4.1
2. 家庭訪問により行った	40.5% -0.2	49.4% +3.0
3. 電話やFAXにより行った	83.4% +10.9	78.8% +7.1
4. 郵便により行った	2.5% -3.8	9.4% +1.2
5. 電子メールやSNSを使って行った	15.3% -2.1	12.9% -2.8
6. オンライン学習支援プラットフォーム・学習管理システム等を活用して行った	3.7% -1.1	1.2% -6.3
7. 同時双方向型オンラインシステムを活用して行った	2.5% -3.4	9.4% +1.8
8. 児童が利用可能な相談窓口を周知・設置して行った	5.5% -0.4	8.2% +0.3

【児童生徒質問紙】「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

＜上 段：本県回答率

下 段：全国平均との差＞

質問項目	小学校	中学校
①新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	59.6% +4.4	66.3% +3.5
②新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	70.1% +5.5	39.9% +2.3
③新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	70.0% +6.9	51.5% +3.1
④新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択） …抜粋		
・ 家族に聞いた	86.0% +7.2	49.1% +4.8
・ 自分で調べた	70.0% +7.6	67.7% +6.1

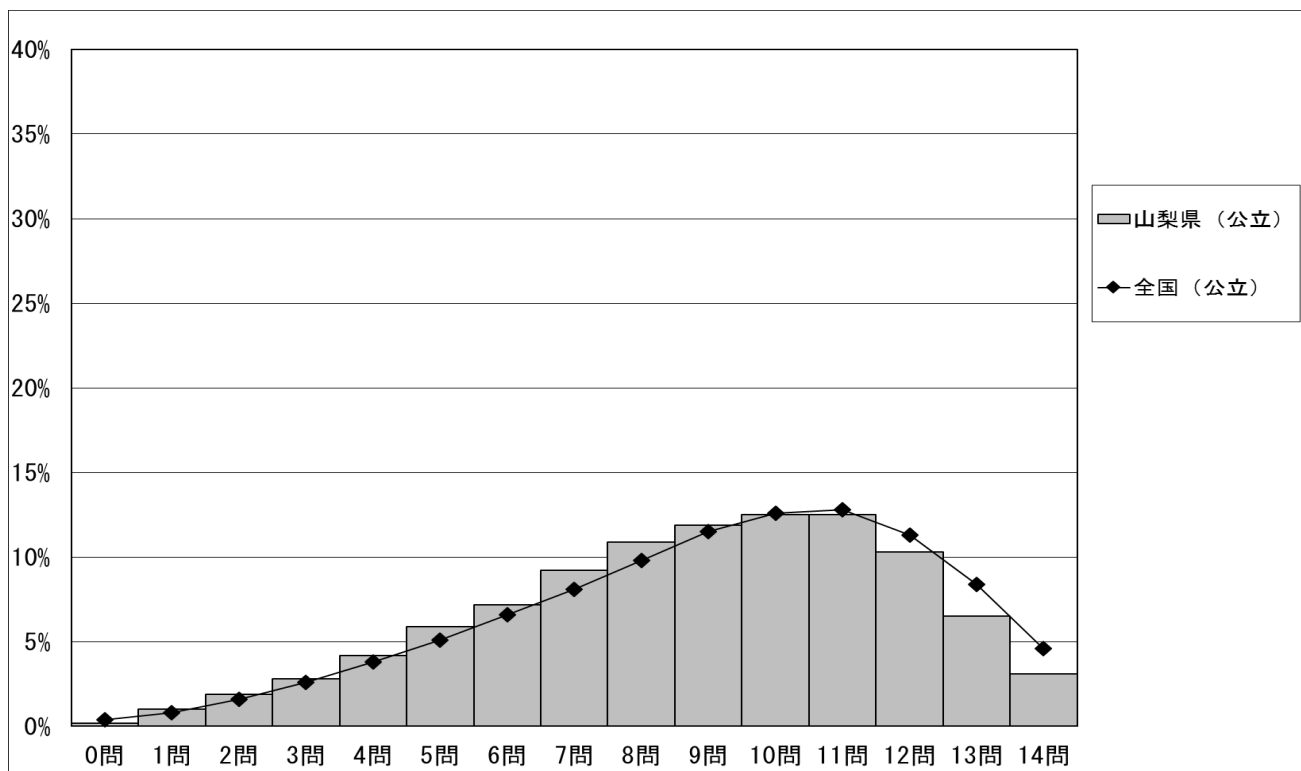


集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,097	8.8 /14	63	9.0	3.0
全国（公立）	993,975	9.1 /14	64.7	9.0	3.1

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				山梨県（公立）	全国（公立）
全体			14	63	64.7
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	65.0	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	77.1	77.8
		B 書くこと	2	58.7	60.7
		C 読むこと	3	45.4	47.2
評価の観点		知識・技能	6	65.0	68.3
		思考・判断・表現	8	60.6	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	70.0	71.7
		短答式	3	66.8	70.6
		記述式	3	38.3	40.2

正答数分布グラフ





小6国語



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する				5・6イ				○		○			78.2	77.5	0.3	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する				5・6ウ				○		○			73.0	74.9	0.6	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の「 <u> </u> 」の部分で話す内容として適切なものを選択する				5・6ウ				○		○			80.0	81.0	0.3	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する						5・6ア		○		○			76.5	77.6	0.3	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	5・6オ							○		○			86.5	87.5	0.2	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く						5・6ウ		○			○		32.0	34.4	3.8	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く						3・4ウ		○			○		27.7	29.7	4.9	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する				5・6イ				○		○			62.1	64.8	2.0	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の「-----」部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す				5・6ウ				○			○		55.4	56.6	9.3	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部アを、漢字を使って書き直す(ころがつている)	5・6エ							○			○		78.1	78.3	8.4	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	5・6エ							○			○		47.0	54.4	14.7	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	5・6エ							○			○		75.2	79.0	6.7	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部イで、~~~~部「残されています」の主語として適切なものを選択する	3・4カ							○		○			64.9	67.0	3.3	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部オで、~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	3・4カ							○		○			38.5	43.6	3.7	4.1



課題の見られる設問

2 四

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

面ファスナー

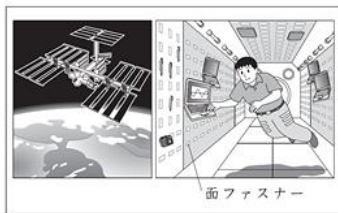
面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の曲がったかぎ状のトゲがおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

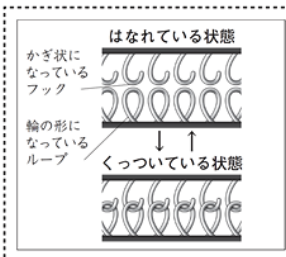
一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通っていたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあい調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しつかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるように使われているのです。一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる利便さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーの仕組み



解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%)
2 段目：全 国(公立)の反応率(%)

問題の概要	解答類型							
	1	2	3	4	5	6	9 9	無解答
面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	27.7	0.1	0.0	8.3	46.5	11.0	1.5	4.9
	29.7	0.1	0.0	8.2	44.6	10.3	1.6	5.5

分析と課題

類型5の「国際宇宙ステーションでの使われ方について書いているが、面ファスナーのよさを取り上げて書いていない」解答が 46.5%と半数近くを占めている。「面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているか」という問いについては意識できたが、国際宇宙ステーションで使うことを可能にしている理由として、面ファスナーのよさを文章から見付けて書くことができていないと考えられる。

類型6の「【資料】から言葉や文を取り上げて書いているが、面ファスナーのよさも、国際宇宙ステーションでの使われ方も書いていない」解答については、「相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしている」ことを捉えることができていないと考えられる。

こうしたことから、『問われていることや条件に合わせて(目的を意識して)、必要な情報(中心となる語や文)を見付け、要約すること』に課題があると考えられる。

四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。



4

学年の学習で...

「要約する」

説明的な文章を読む学習の中で、文章の内容を説明するために端的にまとめる場面を設定します。調査問題の【資料】を活用して、要約する「目的」を変えて取り組んでみましょう。



国際宇宙ステーションの中で、面ファスナーはどんなことに使われていますか。

授業改善の
POINT

国際宇宙ステーションの中で、面ファスナーが活躍するのは、面ファスナーにどんなよさがあるからですか。

①面ファスナーは、何をヒントに開発されたのか、説明しましょう。

②面ファスナーが、日本で広く知られるようになったきっかけを説明しましょう。

③面ファスナーの広がりについて、理由づけをしながら説明しましょう。

問われていることは何か？

何をまとめるのかな？

キーワード(重要な語や文)はどれかな？

どのまとまりに書かれているかな？



問われていることやまとめる条件を意識する
要約する目的を確かめる

キーワードや箇条書き等で端的に書く
必要な情報を選び出す

まとまりを意識して丁寧に読む
必要な情報が書かれているまとまりをさがす

*教科書の中では、「重要な語や文を選び出すこと」は2年生から、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけること」は3年生から学習しています。学習内容の積み上げを意識して取り組んでいきましょう。

授業改善の
POINT

5

学年の学習で...

目的に応じて

「情報を取捨選択する⇒整理する⇒まとめる」

解答例を用いて考え、目的に応じた解答かどうかを説明しあう場面を設定します。

国際宇宙ステーションの中では、ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物を固定するために面ファスナーが使われている。(67字)

解答例が目的や条件に応じたものになっているか、気付いたことを挙げてみましょう。

国際宇宙ステーションでの使われ方が、具体的に書かれているけれど、この文章だと「面ファスナーのよさ」には触れられていないよね？



面ファスナーには、かん単にくっつけたりはがしたりできるよさや、布のようにじゅうなん性があるというよさがあるので、宇宙でつかわれている。(67字)

この説明だと、「どんな使われ方ですか」という問いに答える形になっていない気がするけれど、どうかな？



* 児童同士で確認する *

- ◇情報を取り上げるために着目したところは適しているか
- ◇目的に沿って情報を取り上げているか
- ◇文章が適した表現になっているか(主語と述語・修飾と被修飾・問いと答えの関係等)

*それぞれの考えを説明しあうことは、児童が内容の理解を深めていくことにつながります。

*考えの交流を通して児童が文章を整える経験を重ねられるようにしましょう。また、まわりの友だちと考えを出し合ってよりよいものにしていくことのよさも実感することができるようにならしましょう。

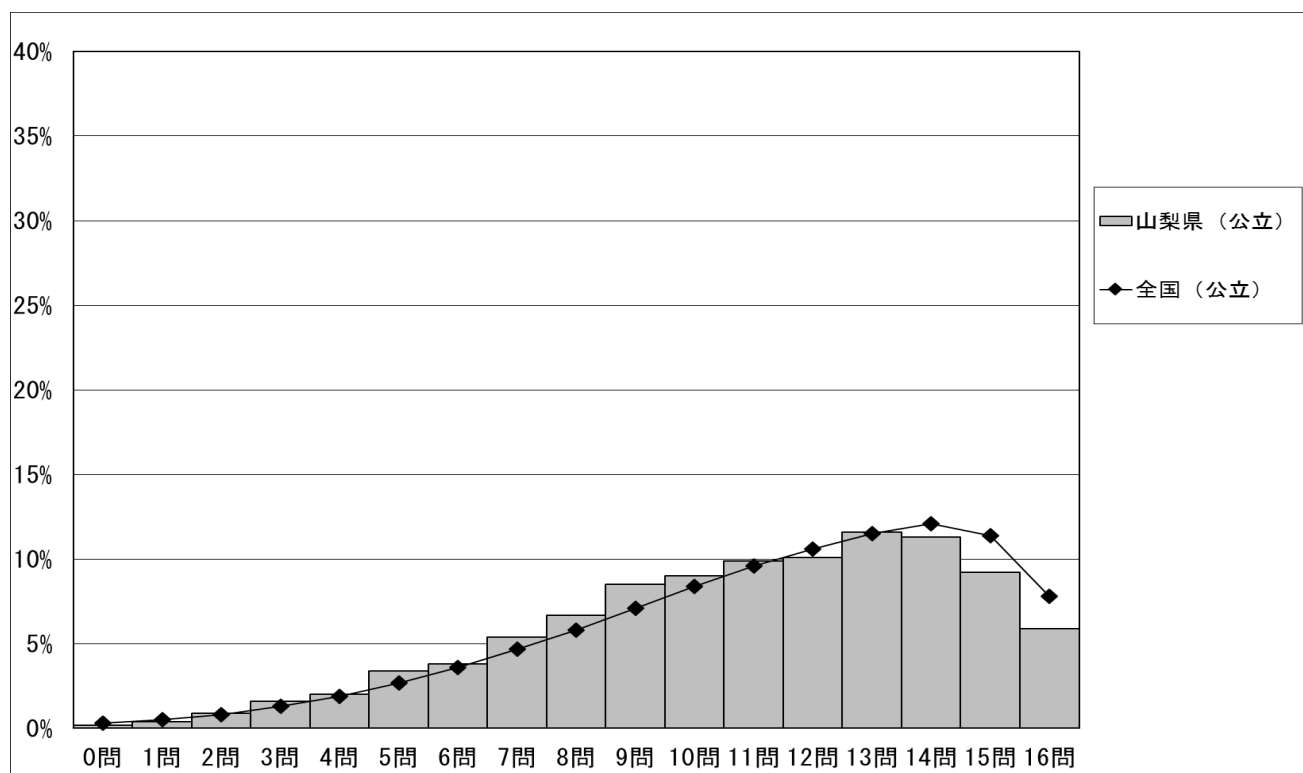


集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,097	10.8 / 16	68	11.0	3.5
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		16	68	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	60.3	63.1
	B 図形	3	54.9	57.9
	C 測定	3	73.1	74.8
	C 変化と関係	3	73.2	75.9
	D データの活用	5	74.1	76.0
評価の観点	知識・技能	9	71.5	74.1
	思考・判断・表現	7	63.0	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	74.1	76.0
	短答式	6	72.8	75.8
	記述式	4	50.8	53.0

正答数分布グラフ





小6算数



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	1(2) ア(イ) 3(2) ア(イ) ※			2(1) ア(ア)			○				○	59.3	62.5	1.2	1.7
1(2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く					5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		○			○		84.9	86.7	1.8	1.7
1(3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ					5(2) ア(ア)	○			○			50.8	55.8	1.6	1.4
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く				3(2) ア(イ)		○				○		88.8	89.2	0.7	0.7
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く					5(2) ア(ア)	○				○		83.9	85.1	1.0	1.5
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く		5(3) ア(ア)				○				○		49.0	55.1	1.0	1.6
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ		5(3) ア(ア)	1(1) ア(イ)			○			○			71.2	72.5	1.0	1.0
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く		5(3) ア(ア) ※					○				○	44.4	46.0	3.5	4.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ					3(1) ア(イ)	○			○			95.2	95.8	0.2	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ					3(1) ア(イ)	○			○			90.3	90.7	0.3	0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ					4(1) ア(ア)	○			○			65.0	67.5	1.4	1.7
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く					5(1) ア(ア) ※	○					○	48.1	52.0	9.1	10.3
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ					5(1) ア(イ) ※	○			○			72.0	73.9	1.1	1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	3(4) ア(ア) イ(イ)						○			○		81.3	83.0	1.5	1.7
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	4(4) ア(エ)					○				○		49.3	55.5	1.5	2.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	4(4) ア(ア) ※						○				○	51.2	51.5	8.9	10.3



課題の見られる設問

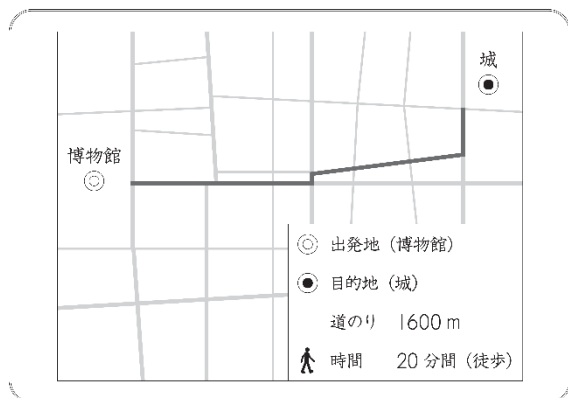
1 (3)

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが

城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで 歩いた道のりと時間を表しています。

調べました。



道のりと時間

	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$

㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



博物館から城までは 1600 m で、20 分間かかるようです。



私たちが歩く速さと同じくらいの速さなのでしょうか。



私たちは、500 m を歩くのに 7 分間かかりましたよ。

1 1 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、㊦のほうが速い。

2 1 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、㊧のほうが速い。

3 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、㊦のほうが速い。

4 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、㊧のほうが速い。

解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%)、2 段目：全国(公立)の反応率(%)

解答類型					
1	2	3	4	9 9	無解答
50.8	25.5	7.7	10.5	3.9	1.6
55.8	22.9	6.9	9.5	3.5	1.4

分析と課題

速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。

正答は、1 である。

2 と解答(解答類型 2)の反応率は 25.5 % である。示された除法の式が 1 分間あたりの道のりを求めるための式であることは理解しているが、求めた商を比べたとき、数値が小さい方が速いと捉えていると考えられる。

3 と解答(解答類型 3)または、4 と解答(解答類型 4)の反応率を合わせると、18.2 % である。示された除法の式が 1 分間あたりの道のりを求めるための式であることを理解していないと考えられる。

平成 25 年度、平成 30 年度に関連した問題が出題されており、「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること」が課題として指摘されている。

場面を捉えて立式することや答えの意味を解釈する場を設けることが大切である。



小6算数



参考 1 (5)

(5) たけるさんたちは、図書館から駅にもどるとき、バスに乗ることにしました。



分速 540 m で走るバスが、2700 m を進むのに何分間かかるかを求める式を書きましょう。

ただし、計算の答えを書く必要はありません。

正答は、 $2700 \div 540$ であり、正答率は 83.0% (全国 85.1%) である。速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことは概ねできている。一方、(3) の正答率は 50.8% (全国 55.8%) である。(5) は形式的に立式できるため、(3) と比べて正答率が高いことが考えられる。

公式によって求めるだけでなく、数量の関係を捉えて式に表すことが重要である。

クロス集計 (全国の結果) より

1 (3) (5) とともに正答の児童の割合は、51.2% である。これは、1 (3) で正答の児童の 91.4% に当たる。除法の式と商の意味がわかっている児童は、式に表すこともできていると考えられる。

授業改善の
POINT

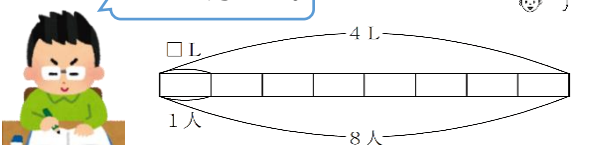
数量の関係を捉えて立式する指導を充実しよう

8 人に、4L のジュースを等しく分けます。1 人分は何 L ですか。

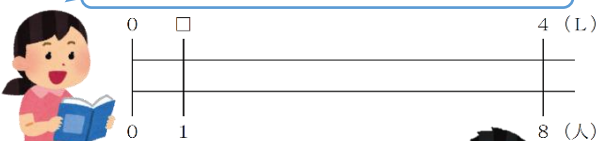
T: 場面を図に表しましょう。

C: 4L を 8 人に分けたよ。

C: 1 人分は…。



C: 8 人で 4L のとき、1 人分は □ L …。



C: どの図も、1 人分の大きさを求めているなあ。

C: 1 人分を求めるから人数を 1 としよう。

C: わり算は、わる数を 1 としたとき、わられる数がいくつに当たるかを求める計算でしたね。

C: だから人数の 8 でわればいいね。式は $4 \div 8$ です。



学年の学習で…

計算結果から問題場면을振り返る指導を充実しよう

	道のり (m)	時間 (分)	どちらが速い?
㊦	1600	20	㊦ $1600 \div 20 = 80$
㊩	500	7	㊩ $500 \div 7 = 71.4$

T: ㊦ と ㊩、どちらが速いですか。

C: 数が小さい方が速い…?

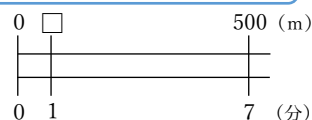
C: 80 や 71.4 が何を表しているかわらなくなっちゃった。

C: なぜ 20 や 7 でわるの?

T: ㊦ と ㊩ の式は何を求めていますか。

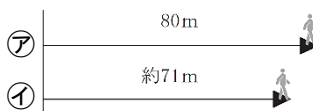
C: 場面を図に表してみたよ。例えば ㊩ は、

C: 7 分で 500m のとき、1 分で □ m です。



C: 1 分間あたりを求めるから時間を 1 とすると…。

C: $500 \div 7$ は 1 分間あたりに進む道のりだ。



C: 1 分間に多く進んだほうが速いよ。

C: 80m と 約 71 m。

C: ㊦ の方が速い!

C: 50m 走なら数が小さいほうが速いね。

C: 同じ距離なら短いほうが速い!

図などを使って立式の理由を説明する場面を設けていますか?

式や答えの意味を問うていますか?

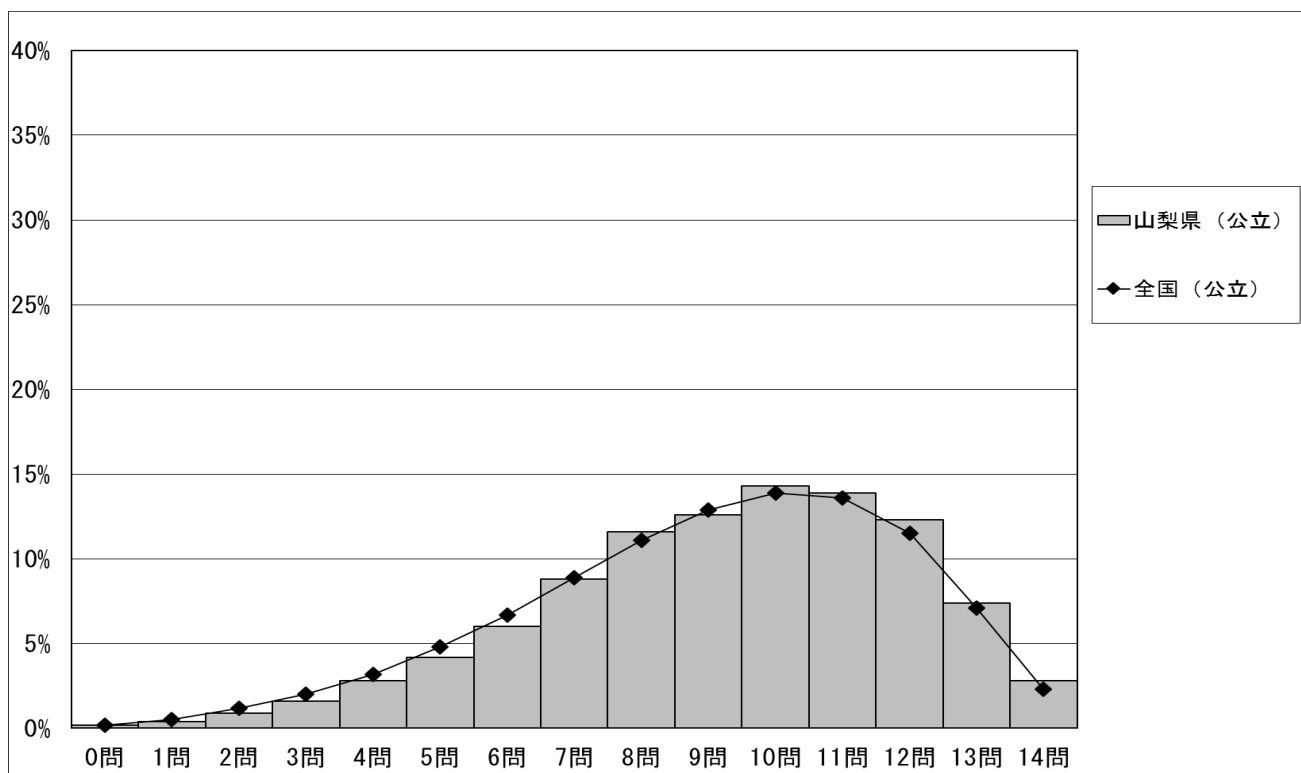


集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,052	9.2 /14	66	10.0	2.7
全国（公立）	903,157	9.0 /14	64.6	9.0	2.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		14	66	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.5	79.8
	書くこと	3	59.1	57.1
	読むこと	4	48.8	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	76.6	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	58.0	56.0
	話す・聞く能力	3	81.5	79.8
	書く能力	3	59.1	57.1
	読む能力	4	48.8	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	76.6	75.1
問題形式	選択式	6	64.4	63.9
	短答式	4	76.2	74.4
	記述式	4	58.0	56.0

正答数分布グラフ





問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	山梨県（公立）	全国（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
1 一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	1オ					○				○			90.2	89.7	0.1	0.2
1 二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	1エ					○				○			93.6	92.5	0.2	0.2
1 三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	1オ				○	○					○		60.8	57.1	2.3	3.4
2 一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する		2エ					○			○			26.3	24.8	0.2	0.3
2 二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く		2オ			○		○				○		77.9	74.5	6.1	8.5
3 一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する			1ア					○		○			44.5	43.7	0.3	0.4
3 二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する			1ウ						○	○			58.2	58.7	0.3	0.4
3 三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す			2イ					○			○		72.2	71.0	5.7	7.3
3 四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く			1オ		○			○			○		20.2	20.5	21.8	24.1
4 一①	漢字を読む（ <u>慥</u> ばして）			2 (1)ウ (7)						○		○		97.5	97.5	1.3	1.5
4 一②	漢字を読む（ <u>詳細</u> ）			2 (1)ウ (7)							○		○	90.3	88.8	2.4	2.3
4 二	「随時」の意味として適切なものを選択する			1 (1)イ (9)						○	○			73.6	74.0	1.1	1.1
4 三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する			2 (1)イ (7)						○		○		45.0	40.3	1.6	1.7
4 四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く		2ウ			○		○				○		73.2	71.9	7.8	9.7



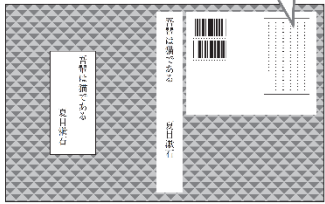
課題の見られる設問

3 (4)

3 次は、夏目漱石の作品「吾輩は猫である」の本のカバーに書かれている【紹介】と、【文章の一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【紹介】

中学教師の吾沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽なもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



【文章の一部】

「こまごまのあらすじ」 吾沙弥先生の家で暮らすことになった猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある茶臼で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、車座（人力車を引く人）に倒れられている乱暴猫である。それ以来、「吾輩」はたびたび「黒」に出くわすようになる。

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶臼の中で寝ころびながら、いろいろな雑談をしていると、彼はいつもの白猫話をさも新しそくにくりかえしたあとで、吾輩に向かって下のごとく質問した。

「おめえはいままでに鼠を何びきとったことがある。」

智識は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇氣にいたってはとうい黒の比較にはならないと断言はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにきまりがよくはなかった。けれども事実が事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は、

「実はとうとうと思うて、まだとらない」と答えた。

黒は、彼の鼻の先からぴんとつばついている長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑った。元来黒は白猫をするだけにとどこか足りないところがあつて、彼の氣配を感じたようにのどをころころ鳴らして譁聴していれば、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになつてからすぐにこの呼吸をのみこんだから、この場合にも、なまじいおのれを弁護してますます形勢を悪くするのも感である、いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年であるから、だいぶんとつたろう」と、そそのかしてみた。

四 【紹介】に「緑部『様々に評価する』とありますが、『文章の一部』では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書きなさい。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

解答類型と反応率

解答類型		山梨県	全国	正答
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。 ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。 ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。				
1	条件①、②、③を満たして解答しているもの。	20.2	20.5	◎
2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの。	2.3	2.1	
3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの。	0.3	0.3	
4	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの。	46.7	44.6	
99	上記以外の解答	8.6	8.5	
0	無解答	21.8	24.1	



分析と課題

- ・ものの見方や考え方が表れている部分を明確にすることに課題がある。
- ・引用の仕方についての知識に課題がある。

1番多い誤答は解答類型4で反応率は46.7%である。約半数の生徒に、問われていることがよく理解できず、「評価」している部分を文章の中から見付けられないことや、引用の仕方に問題があることが考えられる。

ものの見方や考え方が表れている部分を明確にして、自分の考えをもつようにするためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするような指導を行うことが必要となる。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。

その際、第1学年〔知識及び技能〕(2)「イ比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することも大切である。

授業改善の POINT

1

学年の学習で…

「少年の日の思い出」で優れた表現だと思う部分をスピーチしよう。

【C読むこと(1)オを目標として言語活動を設定】

読むことの
学習過程

構造と内容の把握

精査・解釈

考えの形成・共有

**学習過程を通して
理解したことを基に
しながら、言語活動を充実させ、目指す
資質・能力を確実に育もう！**



私は、エーミールの部屋に入ってから、家に戻るまでの表現が印象に残りました。

私は、最後の場面のちょうを一つ一つ取り出してつづす部分がいいと思います。

後半の「僕」とエーミールの会話も好きだけど、前半の「私」のセリフも、好きです。

言語活動は設定されているが… **Before**

文章をどのように捉えたのか

曖昧な意見の発表

ストーリーを読んで感じた、漠然とした課題に対する意見を発表している。明確な根拠を基に[精査・解釈 工の指導事項]、考えを形成する活動になっていない。

指導の工夫

話合いの観点を明確にすることで

ものの見方や考え方が表れている部分を明確にして、自分の考えをもてるようにする



みなさんが考える優れた表現とは、どのようなものですか。具体的な表現も取り入れてスピーチしましょう。説明するときは、必ず本文を参照するようにしましょう。

教科書〇ページの〇行目を見てください。私は、「盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった…」の表現が優れていると思います。理由は、「僕」のちょうに対する考え方が…

私も、「僕」の考え方が伝わる優れた表現に注目しました。私は、最後の文の「ちょうを一つ一つ…」の部分が…

やっぱり「僕」のちょうに対する思いが強すぎたからこうなったのだなあ。



After
文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを発表



本文中の様々な描写に注目して、具体的な描写を根拠に自分の考えを伝える活動になるよう工夫されている。



生徒の考えが確かなものに

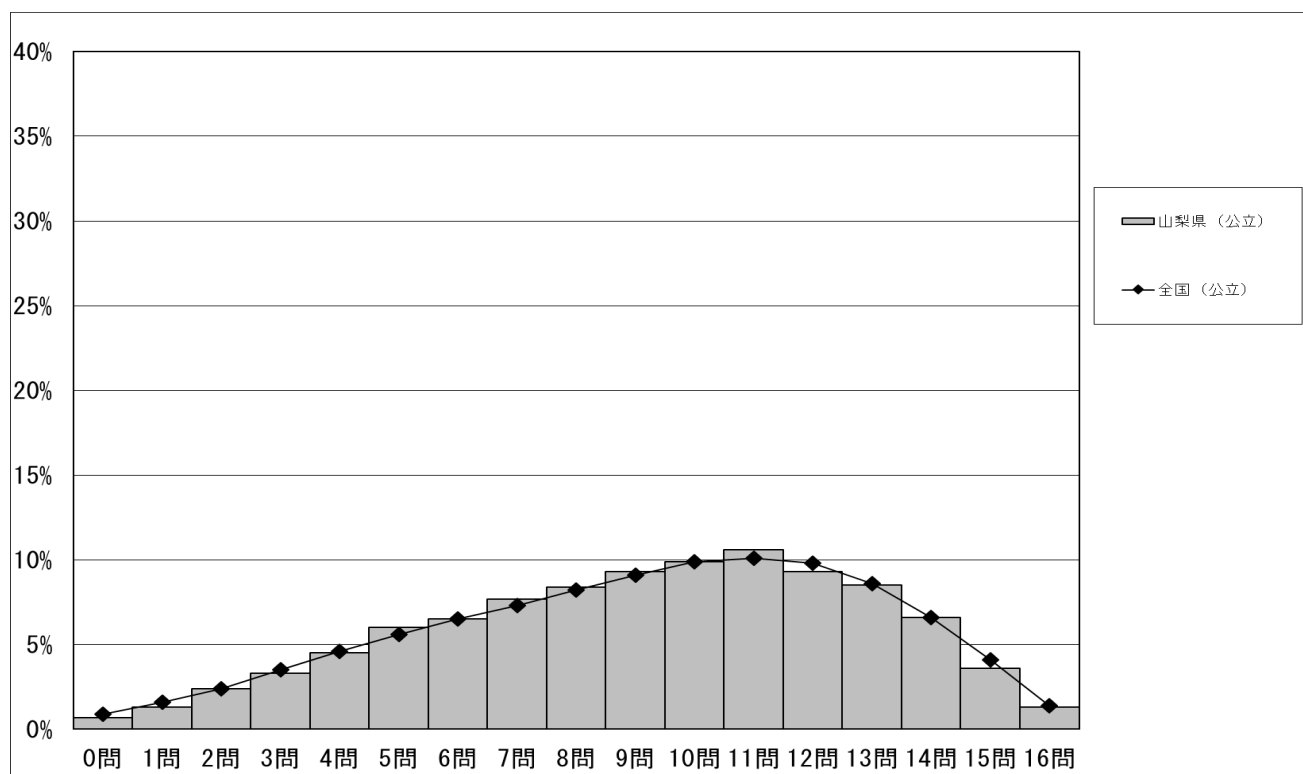


集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,054	9.1 /16	57	9.0	3.6
全国（公立）	903,253	9.1 /16	57.2	10.0	3.7

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		16	57	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	63.7	64.9
	図形	4	51.6	51.4
	関数	3	57.4	56.4
	資料の活用	4	54.4	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	7	41.1	41.1
	数学的な技能	3	76.6	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.2	65.6
問題形式	選択式	2	51.3	52.4
	短答式	9	70.8	70.5
	記述式	5	35.0	35.0

正答数分布グラフ





中3数学



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1	$(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する	2(1) ア						○			○		75.3	77.1	0.4	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	1(3) ウ						○			○		67.9	71.3	7.7	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ		1(2) ウ						○	○			67.5	68.1	0.3	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する			1(1) ア					○		○		49.9	48.0	7.3	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める				1(1) ア			○			○		86.6	84.5	0.7	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	2(1) イ、ウ					○				○		84.8	83.9	2.7	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ、ウ					○					○	60.7	61.8	13.2	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	2(1) イ、ウ					○					○	30.0	30.3	27.5	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める			1(1) ウ					○		○		94.2	93.5	1.5	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する			1(1) エ、オ			○					○	28.0	27.7	21.8	24.7
8(1)	気温差が 9°C 以上 12°C 未満の階級の度数を書く				1(1) ア				○		○		84.7	83.0	3.2	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ				1(1) ア					○	○		35.2	36.8	0.8	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する				1(1) イ		○					○	11.1	11.1	30.0	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する		2(2) イ、ウ				○					○	45.2	44.3	3.6	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す		2(1) ア						○		○		65.6	64.3	11.4	14.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く		2(1) ア				○				○		28.1	28.8	27.1	28.7



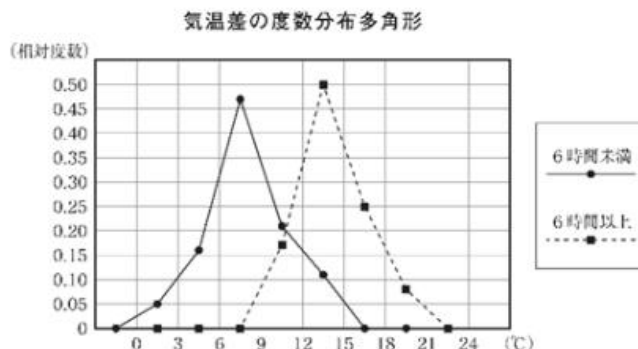
課題の見られる設問

8 (3)

気温差の度数分布表

気温差(℃)	6 時間未満		6 時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ～ 3	1	0.05	0	0.00
3 ～ 6	3	0.16	0	0.00
6 ～ 9	9	0.47	0	0.00
9 ～ 12	4	0.21	2	0.17
12 ～ 15	2	0.11	6	0.50
15 ～ 18	0	0.00	3	0.25
18 ～ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%), 2 段目：全国(公立)の反応率(%)

解答類型											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	99	無解答
3.3	7.8	0.1	5.0	3.6	5.8	8.6	1.8	0.1	1.2	32.6	30.0
3.1	8.0	0.3	4.7	3.1	5.8	8.1	1.6	0.1	1.4	31.6	32.2

分析と課題

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

上記の表より、解答類型1が正答で3.3%、解答類型2が準正答で7.8%である。この2つの反応率を合わせた11.1%が正答率になる。また、無解答率は30.0%である。

解答類型7の反応率は8.6%であり、その具体的な例としては以下のようなものがある。

(例) 6時間以上の度数分布多角形の方が相対度数が大きいから。

このように記述した生徒は、「6時間以上の度数分布多角形の方が6時間未満の度数分布多角形よりも右側にある」ことを明示せずに、度数分布多角形の相対度数を比較して記述したものと考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、代表値の大小比較だけではなく、データの分布の比較から検討し、判断する場面を設定することが大切である。その際、作った二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合うことが考えられる。その上で、見いだした分布の特徴から結論をいうためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する活動を取り入れることが大切である。

*平成29年度 数学B 5 (3) で類題を出題している。(全国正答率18%)



学年の学習で...

データの活用における改善・充実

2つの資料について相対度数で比較する必要があることを確認する

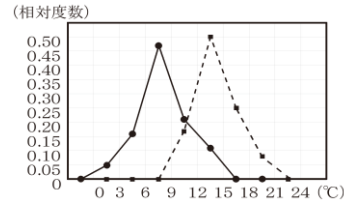
気温差について詳しく調べるために日照時間について、6時間未満の日と6時間以上の日に分けて度数分布表にまとめました。

日照時間が6時間以上の方が、気温差が大きい傾向にあるといえるでしょうか。

	A	B	C
1 気温差(°C)	6時間未満 度数(日)	6時間以上 度数(日)	
2 0~3	1	0	
3 3~6	3	0	
4 6~9	9	0	
5 9~12	4	2	
6 12~15	2	6	
7 15~18	0	3	
8 18~21	0	1	
9 合計	19	12	

授業改善の
POINT

ICT 活用!



T: 横軸は気温差、縦軸は相対度数だね。

度数分布多角形を用いて、2つの資料の分布の特徴を捉える場面を設定する

2つの度数分布多角形を比べて、日照時間が6時間以上の方が、気温差が大きい傾向にあるといえるでしょうか。

S: データの大きさが違うけど、相対度数にすれば比べられるね。

T: 6時間以上と6時間未満の度数の合計が異なるので、相対度数を考える必要がありますね。度数分布表を作り直してみましょう。

ICT 活用!

作り直した気温差の度数分布表

	A	B	C	D	E
1 気温差(°C)	6時間未満 度数(日)	相対度数	6時間以上 度数(日)	相対度数	
2 0~3	1	0.05	0	0.00	
3 3~6	3	0.16	0	0.00	
4 6~9	9	0.47	0	0.00	
5 9~12	4	0.21	2	0.17	
6 12~15	2	0.11	6	0.50	
7 15~18	0	0.00	3	0.25	
8 18~21	0	0.00	1	0.08	
9 合計	19	1.00	12	1.00	

S: いえるよ。6時間以上の方が、最頻値が大きいから。

S: 今回のような場合、最頻値という、ある点の比較だけでよいのかな。

T: 度数分布多角形を比べると、他に何をみたらよいですか?

S: 形かな。

S: 2つの度数分布多角形がほぼ同じ形になっているね。

S: 同じ形で位置が違うということは、分布の全体的な傾向がわかる根拠になるんじゃないかな。

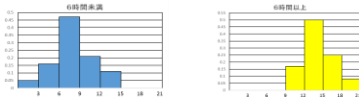
S: 説明にそれを加えようよ。

S: 6時間以上の方が右側にあるよ。

S: 「同じような形で、6時間以上の方が右側にあるから」という説明でもよさそうだね。

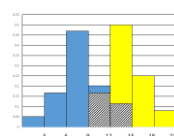
S: これで、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあることがいえだね。

S: パソコンを使って、ヒストグラムに表してみるよ。



T: 横軸は気温差、縦軸は相対度数だね。

S: ヒストグラムを重ねたけど、隠れてしまう部分があるね。



S: 見にくいから、度数分布多角形にしてみたらどうかね。

2つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、その分布の特徴について話し合う活動を取り入れよう!